

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査【小学校】調査結果の概要

### 1 全国平均を100とした標準化得点（上段）と平均正答数（下段） （△全国より上位、▼全国より下位）

地域	阿 賀 野 市												令和3年度	令和4年度
	19年度	20年度	21年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度			
調査項目 年度	19年度	20年度	21年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	令和3年度	令和4年度	
国語A：知識	▼99	▼99	▼98	▼98	△101	▼98	△101	▼99	△101	100	▼99	▼98	▼98	
国語B：活用	100	▼98	▼97	▼98	▼99	100	▼98	▼99	▼99	▼99	▼99	▼98	▼98	
算数A：知識	▼99	▼99	▼98	▼98	△101	100	▼99	△101	100	100	▼97	▼98	▼97	
算数B：活用	▼98	▼98	▼98	▼98	100	▼98	▼98	▼99	▼98	▼98	▼98	▼98	▼98	
理科	*	*	*	100	*	*	▼99	*	*	▼99	*	*	▼98	
国語A：知識	14.4/18	11.3/18	11.9/18	13.3/17	11.7/18	10.5/15	10.0/14	10.8/15	11.4/15	8.4/12	8.7/14	8.4/14	8.7/14	
国語B：活用	6.2/10	5.6/12	4.4/10	5.5/11	4.8/10	5.6/10	5.5/9	5.6/10	5.0/9	4.3/8	8.4/14	10.6/16	9.1/16	
算数A：知識	15.4/9	13.5/19	13.4/18	13.3/19	15.1/19	13.2/17	11.9/16	12.7/16	11.7/15	8.8/14	8.4/14	10.6/16	9.1/16	
算数B：活用	8.4/4	6.2/13	6.9/14	7.0/13	7.6/13	7.1/13	5.4/13	5.9/13	4.7/11	4.6/10	8.4/14	10.6/16	9.1/16	
理科	*	*	*	14.5/24	*	*	13.9/24	*	*	9.3/16	*	*	10.1/17	
調査対象	全校校	全校校	全校校	(*)全校	全校校	全校校	全校校	全校校	全校校	全校校	全校校	全校校	全校校	

平成31年度からは、「知識」と「活用」という問題の区がなくなり、一体的に調査問題が構成されています。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、調査は見送りとなりました。

全国学力・学習状況調査は、学力の一部、学校における教育活動一側面を示していることに過ぎないことに留意する必要があります。

### 2 標準化得点、平均正答数

標準化得点は、国語科が全国を2ポイント、算数科は3ポイント、理科は2ポイント下回っています。平均正答数をみると、国語科は全国平均を0.5問、算数科は全国平均を1.0問、理科は全国平均を0.7問下回りました。阿賀野市の児童は、国語科、算数科、理科ともに、全国よりやや低い状況であるといえます。

### 3 児童質問紙調査に見られる課題と対応

#### (1) 児童の学習意識と学校の授業改善

##### ① 学習に対する関心・意欲・態度

阿賀野市児童の教科に関する意識は概ね良好といえます。学力向上に向けて大事な指標となる「教科の勉強が好き」は、国語科で全国を2.6ポイント、理科で全国を4.6ポイント上回りました。しかし、算数科では全国を3.1ポイント下回りました。また、「授業内容はよく分かる」の設問については、国語科は全国を2.1ポイント、理科は全国を4.1ポイント上回りましたが、算数科では全国を0.7ポイント下回りました。しかし、全国を下回った算数科でもその差はわずかです。児童の「分かる」という意識を教科の結果につなげることが課題といえます。

##### ② 授業改善の推進

各小学校は、自校の学力実態を分析し、真摯に授業改善に取り組んでいます。平均正答数の全国との差は、3教科とも1問以内です。今後も「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現、特に、確かな理解につながる「対話的な学び」及び「深い学び」の充実に向け一層の授業改善を進めることが重要であると考えます。併せて、基礎的・基本的内容を定着させるための繰り返し学習をする時間の確保が重要であると考えます。

#### (2) 家庭での過ごし方と学習習慣の改善

##### ① 生活習慣

「朝食摂取」、「定時就寝・定時起床」など生活の基本となる習慣については、肯定的評価が全国とほぼ同じ割合であり良好な状況にあります。「定時就寝・定時起床」以上に大事なことは、十分な睡眠時間の確保です。睡眠時間の大切さについて、各校は保護者と連携し、継続的に指導していく必要があります。

##### ② 学習習慣

平日の家庭学習時間で、「1時間以上」の児童は70.1%を占め、全国を約10.7ポイント上回りました。最多時間帯はこれまでと変わらず「1時間以上2時間未満」でした。しかし、「2時間以上」に限ると前年度より上昇し15.4%でしたが、まだ全国を9.7ポイント下回っています。土曜日や日曜日の家庭学習時間についても「1時間以上2時間未満」が最も多く47.7%でした。これまで、各小学校では、学習習慣の定着を目的として、家庭学習時間については「学年×10分」を目標に指導してきました。その結果、学習習慣は定着していると考えます。家庭学習を1時間以上する児童が約70%を占める現在、個々の児童の実態に配慮しつつ、家庭学習時間を伸ばすことが重要であると考えます。そのためには家庭学習の質の向上が不可欠です。ドリル以外にも、授業内容との密接な関連を図った学習（その日の学習の振り返りや予習）などを課題として与え、家庭学習をすることの良さを実感させていくことが必要であると考えます。

家庭学習時間と関連する生活習慣として家庭でのゲーム等の時間が挙げられます。令和4年度の児童の意識調査結果は、「ゲーム時間2時間以上」の児童の割合は65.4%、「SNSや動画視聴2時間以上」の児童の割合は41.3%でした。ともに、全国を大きく上回っています。ゲーム時間、スマートフォンでのSNSや動画視聴時間と教科の正答率のクロス集計では、ゲームやSNS・動画視聴の時間が長いと教科の正答率低くなることが報告されています。メディアコントロールは、健康面のみならず学力とも大きく関係しています。メディアコントロールに向け、学校と保護者の強力な連携行動が必要であると考えます。

# 令和4年度 全国学力・学習状況調査【中学校】調査結果の概要

## 1 全国平均を100とした標準化得点（上段）と平均正答数（下段） （△全国より上位、▼全国より下位）

地域 調査項目 年度	阿 賀 野 市												
	19年度	20年度	21年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	令和3年度	令和4年度
国語A：知識	▼98	▼98	▼98	▼97	▼96	▼99	▼97	100	▼98	▼97	▼99	▼98	▼98
国語B：活用	▼99	▼98	▼97	▼96	▼96	▼99	▼99	▼99	▼98	▼97			
数学A：知識	▼97	▼97	▼96	▼96	▼94	▼96	▼97	▼99	▼98	▼96	▼97	▼95	▼96
数学B：活用	▼98	▼97	▼97	▼95	▼94	▼96	▼97	▼99	▼98	▼96			
理 科	*	*	*	▼96	*	*	▼97	*	*	▼97	*	*	▼97
英 語											▼97	*	*
国語A：知識	29.5/37	24.0/34	24.1/33	22.4/32	22.2/32	25.2/32	23.7/32	25.2/33	23.6/32	22.7/32	7.1/10	8.6/14	9.0/14
国語B：活用	6.9/10	5.6/10	7.6/11	5.0/9	5.1/9	4.3/9	5.7/9	5.8/9	6.1/9	5.0/9			
数学A：知識	23.7/36	19.6/36	18.2/33	19.8/36	18.2/36	21.3/36	20.8/36	21.7/36	21.7/36	20.8/36	8.6/16	7.4/16	6.0/14
数学B：活用	9.3/17	6.5/15	7.3/15	5.8/15	4.5/16	7.7/15	5.2/15	6.3/15	6.6/15	5.2/14			
理 科	*	*	*	11.2/26	*	*	11.5/25	*	*	16.1/27	*	*	9.0/21
英 語											10.6/21	*	*
調査対象	全学校	全学校	全学校	(*)全学校	全学校	全学校	全学校						

平成31年度からは、「知識」と「活用」という問題の区分がなくなり、一体的に調査問題が構成されています。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、調査は見送りとなりました。

全国学力・学習状況調査は、学力の一部分、学校における教育活動一側面を示していることに過ぎないことに留意する必要があります。

## 2 標準化得点、平均正答数

標準化得点は、国語科は全国を2ポイント、数学科は全国を4ポイント、理科は全国を3ポイント下回りました。また、平均正答数をみると、国語科は全国平均を0.7問、数学科は1.2問、理科は1.4問下回りました。阿賀野市の生徒は、国語科については全国よりやや低い状況ですが、数学科及び理科は低い状況にあるといえます。阿賀野市生徒にとって、基礎的・基本的学習内容の確実な習得とともに、思考力・判断力・表現力の育成が課題です。

## 3 生徒質問紙調査に見られる課題と対応

### (1) 生徒の学習意識と学校の授業改善

#### ① 学習に対する関心・意欲・態度

阿賀野市生徒の教科に関する意識は、設問項目の多くで肯定的回答が全国を上回っており良好といえます。

学力向上に向けて重要な要素である「教科の勉強が好き」及び「授業が分かる」についてみると、国語科では「勉強が好き」が2.1ポイント、「授業が分かる」が3.1ポイント全国を上回りました。数学では、「勉強が好き」は全国を2.9ポイント下回りましたが、「授業内容が分かる」は全国を4.2ポイント上回りました。理科も「勉強が好き」は全国を3.1ポイント下回りましたが、「授業が分かる」と答えた生徒の割合は全国を1.4ポイント上回りました。

#### ② 授業改善の推進

教科に対する意識に比べ、学力が低い状況にあります。各中学校は、令和3年度に始まった新しい学習指導要領の「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現に向けて授業改善に取り組み、中学校の授業は、教師主導の授業から、生徒の学習意欲を喚起し、生徒が主体となって活動する授業へと変わってきています。

その成果が、「授業が分かる」という生徒の割合が、3教科とも前年度調査（理科は平成30年度）を上回る結果として現れていると考えます。阿賀野市生徒の「分かる」という意識を数値的な結果につなげるため、授業の質の向上や繰り返し学習が必要です。

### (2) 家庭での過ごし方と学習習慣の改善

#### ① 生活習慣

「朝食摂取」「定時就寝・起床」の規則正しさはほぼ全国と同じであり、良好な状態にあるといえます。就寝・起床については、「定時就寝・提示起床」以上に大事なことは、実質的な睡眠時間の確保です。睡眠時間の大切さについて、学校では保健教育での指導とともに、保護者と連携し継続的に指導していく必要があります。

#### ② 学習習慣

平日の家庭学習時間で、「1時間以上」家庭学習をしている生徒の割合は64.2%となり、生徒の約2/3を占めました。時間の内訳は「1時間以上2時間未満」が42.4%、「2時間以上」が21.8%でした。「2時間以上」の生徒の割合をみると全国を13.4ポイント下回っています。市生徒の家庭学習時間は短いといえます。学力向上には授業改善とともに家庭学習が不可欠です。市の生徒にとっては、家庭学習時間を増やすことが必要です。また、授業内容との密接な関連を図った学習（その日の学習の振り返りや予習）などを課題として与えるなど、家庭学習の質の向上を図り、家庭学習をやる良さを実感させていくことが必要であると考えます。

家庭学習時間と密接に関連する生活習慣として、ゲーム等の時間が挙げられます。阿賀野市の生徒で「ゲーム時間2時間以上」の割合は63.3%、「SNSや動画視聴2時間以上」の割合は61.5%で全国を大きく上回っています。中学生についても、ゲーム時間、スマートフォンでのSNSや動画視聴の時間と教科の正答率のクロス集計では、ゲーム等の時間が長いと教科の正答率が低くなることが報告されています。メディアコントロールに向け、めあてを立てさせるなど、中学生らしく主体性を大事にした指導が必要であると考えます。